

No.	013	—	2001	事務事業名	観光振興事業			細事務事業名	公的関与	8				
PLAN	課名	産業創出課	係名	商工観光係	電話番号	089-964-4414	メールアドレス	sangyosyutsu@city.toon.ehime.jp						
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度	～	期間設定なし			
	総合計画	政策目標	第3章 創造性と活力に満ちた元気産業のまち		政策項目	3 観光・物産の振興		主要施策	(1) 観光振興体制の確立					
	事業の対象	市内内外の観光客				根拠法令								
	事業の目的	最終的	市の観光・物産の情報発信、情報収集、更に問合せ等への対応を行い、交流人口の拡大により本市経済の活性化、地域の発展を目指します。				今年度							
	活動内容	①	市内観光・物産の発信。				④	市内観光イベントの支援及び市外観光イベントへの参加。						
		②	市内観光・物産関係の問合せへのきめ細かな対応。				⑤	観光物産協会への支援。						
		③	観光関係の各種調査事務。											
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由			単位	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 元 年度	最終目標			
		観光入込客数		観光客数 (年単位)			千人	目標 1,240	1,240	1,240	1,300			
市観光物産協会会員数		観光物産協会会員数			人	目標 120	120	120	120					
						実績 105	104							
坊っちゃん劇場入場者数		入場者数			人	目標 100,000	90,000	90,000	100,000					
						実績 69,008	74,019							
DO	予算費目	会計	一般会計			費目名	商工			費				
	直接事業費			平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 元 年度予算	備考							
		国・県支出金		0 千円	0 千円	0 千円								
		地方債		0 千円	0 千円	0 千円								
		その他特定財源		0 千円	0 千円	0 千円								
		一般財源		592 千円	736 千円	758 千円								
	計(A)		592 千円	736 千円	758 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.800 人	4,810 千円	0.745 人	4,568 千円	0.745 人	4,650 千円						
		臨時職員工数・経費	0.461 人	910 千円	0.505 人	1,002 千円	0.505 人	1,003 千円						
	全体事業費(A+B)		6,312 千円		6,306 千円		6,411 千円							
CHECK・ACTION	一次評価者	商工観光係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実
	項目	評価項目の説明 (一次評価者のコメント)												
	必要性	観光情報の発信、問い合わせ等により、市内の観光地を積極的にPRし、観光客誘致を行い、交流人口を拡大させることにより、地域経済の活性化を図る必要があります。												
	有効性	本市の観光・物産のPRをすることにより、本市に興味関心を持ち訪れる人が多くなる事は、地域活性化につながる大切な事業です。												
	達成度	市内の個々の観光施設は、市内外や県外からも多くの方が訪れるようになってきていますが、さらなる「東温市」の認知度UPが急務となっています。												
	効率性	松山市、砥部町との広域観光連携により、効果的に事業を行なっています。また、県内外の市町や協定締結自治体等との連携にも取り組んでいます。												
	当面の課題	これまで、市観光物産協会を中心に実施してきた誘客促進のモニターツアーなどの結果を基に、本市の地域資源を活用したツアー商品を造成する必要があります。												
	改革計画	市観光物産協会や市内事業者、大学、金融機関等と連携し、ツアーの商品化を進めるとともに、旅行者等へ東温市の地域資源を紹介し、観光客の誘致の積極的に取り組みます。												
二次評価者	産業創出課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実	
二次評価での指摘事項	これまで、観光物産協会が中心となって、事業所、地域、団体などの連携により、個々での体験メニューもできつつあることから、今後は、これらを活用し、ターゲットを明確にした魅力あるツアー商品となるように取り組んでください。また、旅行会社やバス会社などへ、積極的にセールスを行い、誘客促進に取り組んでください。													

No.	013	—	2006	事務事業名	観光宣伝事業			細事務事業名	公的関与	8				
PLAN	課名	産業創出課	係名	商工観光係	電話番号	089-964-4414	メールアドレス	sangyosyutsu@city.toon.ehime.jp						
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度	～	期間設定なし			
	総合計画	政策目標	第3章 創造性と活力に満ちた元気産業のまち		政策項目	3 観光・物産の振興		主要施策	(1) 観光振興体制の確立					
	事業の対象	県内外の観光客				根拠法令								
	事業の目的	最終的	本市の魅力ある観光地や特産品のPRを積極的に行い、認知度のUPを図り観光客の誘致に取り組み、交流人口の拡大を目指します。最終的には、定住人口の増加、地域経済の発展につながるよう取り組みます。				今年度							
	活動内容	①	市長をトップとしたキャラバン隊を編成し、本市の観光・物産のPR活動を行います。				④							
		②	観光・物産宣伝用資材を作成します。				⑤							
		③												
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由			単位	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 元 年度	最終目標			
		観光PRキャラバン活動数	実施回数			回	目標	2	2	2	2			
実績							2	2						
観光入込客数		観光客数 (年単位)			人	目標	1,240	1,240	1,240	1,300				
						実績	1,043	1,016						
広域観光連携PR活動数	実施回数			回	目標	3	3	3	3					
					実績	3	3							
DO	予算費目	会計	一般会計			費目名	商工			費				
	直接事業費		平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 元 年度予算	備考								
		国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円									
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円									
		その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円									
		一般財源	460 千円	408 千円	353 千円									
	計(A)	460 千円	408 千円	353 千円										
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.322 人	1,936 千円	0.298 人	1,827 千円	0.250 人	1,560 千円						
		臨時職員工数・経費	0.065 人	128 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円						
	全体事業費(A+B)		2,524 千円	2,235 千円	1,913 千円									
CHECK・ACTION	一次評価者	商工観光係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実
	項目	評価項目の説明 (一次評価者のコメント)												
	必要性	本市の認知度をUPさせるためには、市長自らのトップセールスによる観光PRキャラバンはとても効果があり、地域活性化に繋がる必要な事業です。												
	有効性	観光PRキャラバンを継続的に実施することにより、本市を知らない方々に直接本市の魅力を伝えることができるとともに、マスメディアにも取り上げられることもあり、非常に有効です。												
	達成度	観光PRキャラバンにより、あまり知られていない観光スポットや物産について周知することができており、多くの都道府県からの観光客が増加しつつあります。												
	効率性	広域観光連携推進協議会や本市観光物産協会と連携し、道後温泉に宿泊する観光客を本市へ回遊させる宣伝活動等を実施していきます。												
	当面の課題	観光PRキャラバン時に、市内の魅力ある観光スポットや特産品、お店等を盛り込んだ総合パンフレットを作成する必要があります。交流自治体や市観光物産協会等の関係団体との連携を密にして、効果的に事業を実施する必要があります。												
	改訂計画	中四国を中心に、本市の魅力を伝える観光PRキャラバンを実施するとともに、SNS等を活用した事業に取り組みます。												
二次評価者	産業創出課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実	
二次評価での指摘事項	市長によるトップセールというところもあり、訪問地のマスメディアにも取り上げられ、事業実施後には、本市観光地等への取材もあるなど、非常に効果のある取り組みとなっています。今後も、戦略的に訪問先を選定するとともに、他の事業との連携も視野に入れ、より効率的な実施を行うとともに、積極的に取り組んでください。													

No.	013	—	2033	事務事業名	とうおん健康医療創生事業	細事務事業名		公的関与	8					
PLAN	課名	産業創出課	係名	商工観光係	電話番号	089-964-4414	メールアドレス	sangyosyutsu@city.toon.ehime.jp						
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	一部委託	実施計画	該当	事業期間	年度 ~ 期間設定なし					
	総合計画	政策目標	第3章 創造性と活力に満ちた元気産業のまち		政策項目	2 商工業の振興		主要施策	(5)愛媛大学医学部と市内企業との連携					
	事業の対象	市内中小零細企業、市民、市外の観光客				根拠法令								
	事業の目的	最終的	市、市内中小連携事業、愛媛大学及び愛媛大学医学部が連携したモノづくり産業の創生とヘルスケア産業の創生			今年度								
	活動内容	①	市内中小零細企業と連携によるものづくり産業の創生。			④	健康づくり支援システム(ウェルスポートナビ)活用事業の実施。							
		②	地域資源を活用したヘルスケア産業の創生。			⑤								
		③	さくらの湯ランチの実施。											
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 元 年度	最終目標				
		さくらの湯ランチ体験者集	体験者			人	目標	25	100	100	120			
実績						11	81							
ヘルスツーリズム参加者数		参加者数			人	目標	20	20	20	40				
					実績	19	30							
ウェルスポートナビ登録者数	登録者数			人	目標	—	300	300	300					
				実績	—	141								
DO	予算費目	会計	一般会計		費目名	商工		費						
	直接事業費		平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 元 年度予算	備考								
		国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円									
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円									
		その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円									
		一般財源	3,925 千円	5,420 千円	5,966 千円									
	計(A)	3,925 千円	5,420 千円	5,966 千円										
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.380 人	2,285 千円	0.228 人	1,398 千円	0.200 人	1,248 千円						
		臨時職員工数・経費	0.300 人	592 千円	0.337 人	669 千円	0.300 人	596 千円						
	全体事業費(A+B)		6,802 千円	7,487 千円	7,810 千円									
CHECK・ACTION	一次評価者	商工観光係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実
	項目	評価項目の説明 (一次評価者のコメント)												
	必要性	愛媛大学医学部を中心に市内中小零細企業と連携しており、市長の公約の一つでもある健康日本一のまちづくりを実現するために必要な事業です。												
	有効性	市民の健康増進のみならず、市内中小零細企業と連携することで、地域経済の活性化につながる重要な事業です。また、さくらの湯ランチを実施することにより、他の温浴施設との差別化が図れ、観光客誘客にも繋がる事業です。												
	達成度	ヘルスツーリズムモニターツアー、もち麦レシピの開発などの取組みにより、東温市の旅行商品開発や、特産品の販路拡大に向けた取り組みができています。												
	効率性	愛媛大学医学部を中心に、市内中小零細企業と連携を図り事業に取り組むことにより、市だけではできない取り組みも可能となる事業です。												
	当面の課題	さくらの湯ランチが毎月1回の開催となっており、体験できる人数が限られている。平成30年度から開始した、ウェルスポートナビを市民へ浸透させるための検討が必要です。また、蓄積されたデータの分析、活用方法についても愛媛大学医学部と連携した検討が必要です。												
改革計画	ヘルスツーリズムツアー等の商品化、活用推進による観光客の誘致。健康推進課等関係部署と連携した効果的な事業の推進。													
二次評価者	産業創出課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実	
二次評価での指摘事項	本市の経済を活性化するためには、市内中小零細企業の商品・サービス等に付加価値を付けることは重要です。そのために、市内事業所に対し研究会によるヒアリングを行い、研究会メンバーを中心とした愛大の研究者とマッチングによる取り組みの実現を目指してください。													

No.	013	—	2034	事務事業名	さくらの湯観光物産センター・ふるさと交流館さくらの湯維持管理事業			細事務事業名				公的関与	6	
PLAN	課名	産業創出課	係名	商工観光係	電話番号	089-964-4414		メールアドレス	sangyosoyutsu@city.toon.ehime.jp					
	事業区分	施設の維持管理		事業運営方法	一部委託	実施計画	非該当	事業期間	平成 30 年度	～	期間設定なし			
	総合計画	政策目標	第3章 創造性と活力に満ちた元気産業のまち		政策項目	3 観光・物産の振興		主要施策	(1) 観光振興体制の確立					
	事業の対象	観光物産センター及びさくらの湯の入館者				根拠法令	東温市ふるさと交流館条例、東温市さくらの湯観光物産センター条例							
	事業の目的	最終的	観光及び産業の振興を図るとともに、適切に修繕など維持管理に努めます。			今年度	指定管理者制度の導入の初年度となるため、適切に修繕など維持管理を行い、確実な開館に努めます。							
	活動内容	①	施設の維持管理			④								
		②				⑤								
		③												
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由			単位	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 元 年度	最終目標			
		観光物産センター開館日数	開館日数 (農産物直売所)	日	目標	-	347	347						
実績					-	348								
さくらの湯開館日数		開館日数	日	目標	-	353	353							
				実績	-	326								
			目標											
			実績											
DO	予算費目	会計	一般会計			費目名	商工			費				
	直接事業費		平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 元 年度予算	備考								
		国・県支出金	- 千円	0 千円	0 千円	・平成30年4月1日から指定管理者制度導入 ・全体事業費(直接事業費及び人件費)は、観光物産センター及びさくらの湯の合計								
		地方債	- 千円	0 千円	0 千円									
		その他特定財源	- 千円	7,742 千円	7,727 千円									
		一般財源	- 千円	26,564 千円	16,941 千円									
	計(A)	0 千円	34,306 千円	24,668 千円										
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.000 人	0 千円	1,489 人	9,129 千円	1,489 人	9,293 千円						
		臨時職員工数・経費	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円						
	全体事業費(A+B)		0 千円	43,435 千円	33,961 千円									
CHECK・ACTION	一次評価者	商工観光係	総合評価点	A	必要性	3	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	民間委託等
	項目	評価項目の説明(一次評価者のコメント)												
	必要性	観光物産センターは、新たに平成30年4月に設置された市で唯一の観光・産業の振興を図る施設であるため、必要性は高いです。さくらの湯は、市で唯一の市民の健康・福祉の増進、観光・産業の振興を図る施設であるため、必要性は高いです。												
	有効性	観光物産センターは、新たに平成30年4月に設置された市で唯一の観光・産業の振興を図る施設であるため、有効性は高いです。さくらの湯は、市で唯一の市民の健康・福祉の増進、観光・産業の振興を図る施設であるため、有効性は高いです。												
	達成度	観光物産センターは、新たに平成30年4月に設置された施設です。開館目標の347日に対して348日開館し、目標は達成できました。さくらの湯は、源泉ポンプトラブルにより、開館目標353日に対して326日開館し、目標は達成できませんでした。												
	効率性	観光物産センターは、新たに平成30年4月に設置された施設です。指定管理者制度導入により、市の人件費は削減できましたが、指定管理者のマンパワーが不足している状況です。さくらの湯は、指定管理者制度導入により、市の人件費は削減できましたが、開館後20年を経過しており、修繕費の増加が懸念されます。												
	当面の課題	観光物産センターは、指定管理者のマンパワーが不足している状況です。さくらの湯は開館後20年を経過しており、修繕費の増加が懸念されます。												
	改革計画	観光物産センターはマンパワーが不足している状況のため、人件費の補填等を検討する必要があります。さくらの湯は、市が負担する修繕費を増額する必要があります。												
二次評価者	産業創出課長	総合評価点	A	必要性	3	有効性	4	達成度	2	効率性	4	今後の方向性	民間委託等	
二次評価での指摘事項	指定管理者と協議を行いながら、必要な経費は予算計上し、適正な管理・運営に努めてください。													